

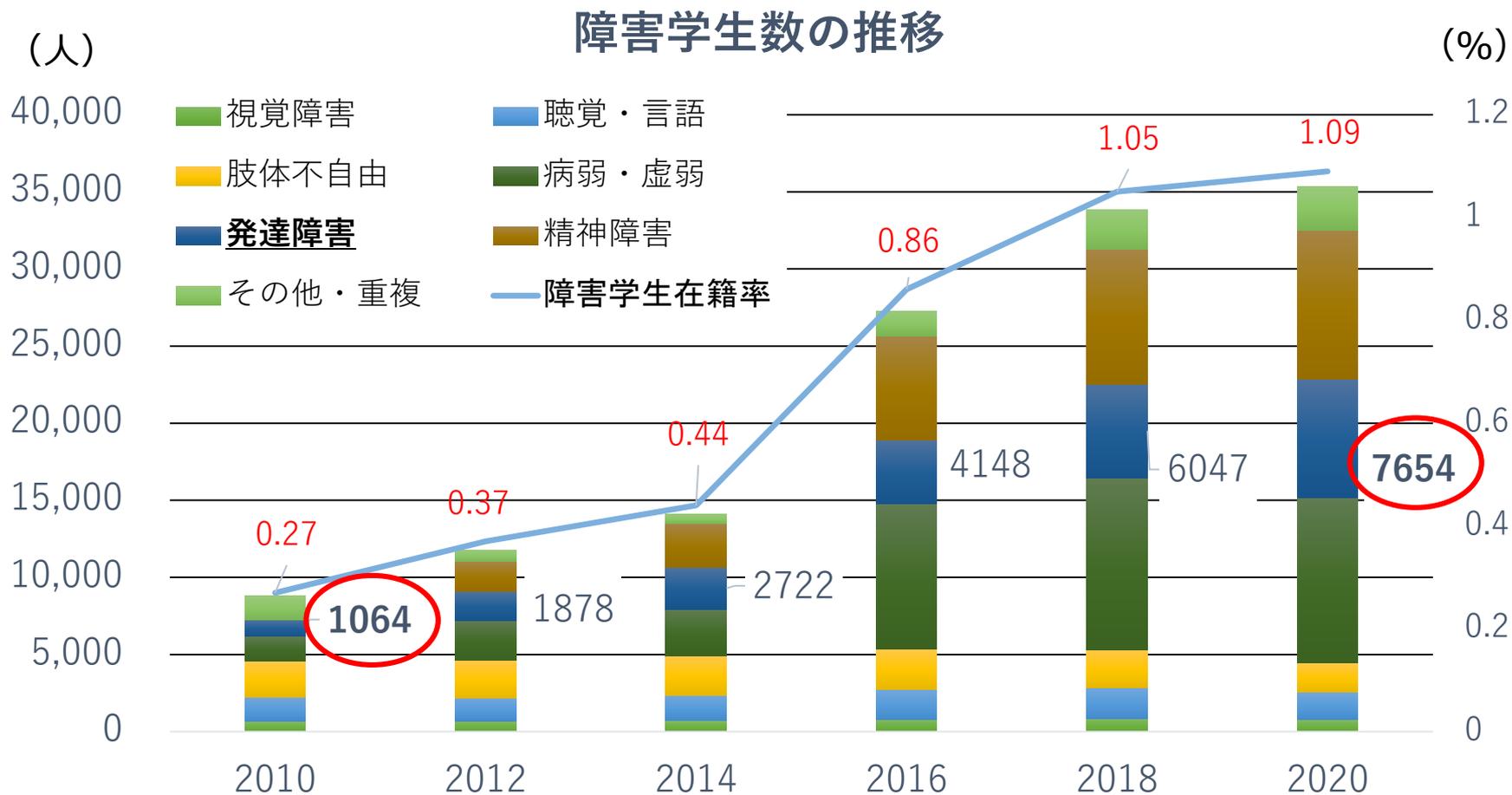
【第2分科会】

発達障害のある大学生の就労支援 (自己理解から就職までの2つのモデルケース)

- 西本 士郎 (神戸公共職業安定所学卒部門 雇用トータルサポーター (大学等支援分))
下司 実奈 (神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科 准教授)
北村 沙緒理 (神戸学院大学学生支援センター 障がい学生支援コーディネーター)

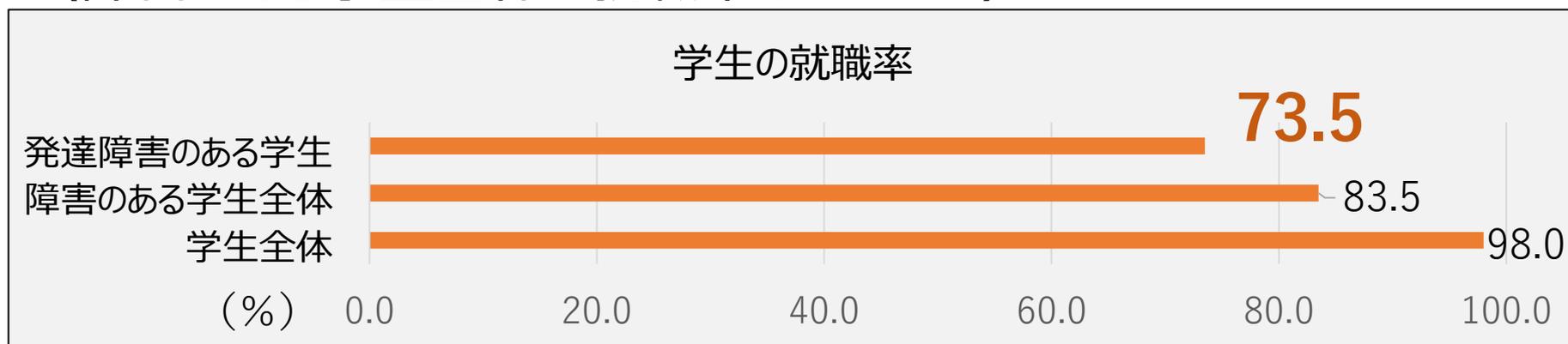
発達障害のある学生の在籍数の推移

障害のある学生等の数は**10年前と比較して大幅に増加**しており、特に発達障害のある学生は約**7倍に増加**



発達障害のある学生の就職率

発達障害のある学生（診断書有）の学生の就職率（73.5%）は、学生全体の就職率（98%）と比較して、**24.5ポイント低い**（障害のある学生全体の就職率は83.5%）



障害学生(※1)の就職率 [障害種別] (令和元年度卒業生)			
障害種別	就職希望者数 (人)	就職者数 (人)	就職率 (%)
合計	3,888	3,247	83.5
視覚障害	77	66	85.7
聴覚・言語障害	268	246	91.8
肢体不自由	276	221	80.1
病弱・虚弱	1,262	1,150	90.6
重複	36	24	66.7
発達障害	705	518	73.5
精神障害	1,033	819	79.3
その他	224	203	90.6

障害者差別解消法の施行

2016年「障害者差別解消法」施行

⇒ **大学等でも「合理的配慮」の提供**が求められる

- | | | |
|------------------|----------|--------|
| ■ 国公立大学、高等専門学校など | ⇒ 「行政機関」 | ⇒ 法的義務 |
| ■ 学校法人、学校設置会社 | ⇒ 「事業者」 | ⇒ 努力義務 |

※2021年5月改正「事業者」にも、法的義務が課せられる ⇒ 2024年6月までに施行



- 大学では入学時にアンケートや面談などを通して修学には配慮がされつつあるが、**障害のある学生への就労支援は、大学内の組織連携・社会資源との連携等未だ十分とは言えない**
- 一方で、障害者差別解消法の施行により、高等教育機関に進学する**障害学生のさらなる増加が予想される**

雇用トータルサポーター（大学等支援分）の役割

(1) 発達障害等があり専門的な就職準備支援を必要とする学生に対し、
就職準備から定着まで支援する

(2) 大学の学生への就職支援へのサポート・情報提供を行う

(3) 企業への障害のある学生の採用への理解促進・定着支援を行う



令和3年4月設置

雇用トータルサポーター

(3) 企業

発達障害等の雇用経験の少ない企業や障害のある新規学卒者を採用していない企業に対して以下を実施。

- ① 発達障害等の特性理解促進セミナーの実施。
- ② 障害のある学生の採用・雇用管理に当たっての情報提供、相談実施。
- ③ 障害の学生の個別求人開拓。
- ④ 職場定着に向けた雇用管理の助言。

(2) 大学等

対象学生を早期に把握し支援するため、大学等の支援担当に対し以下を実施。

- ① 支援の内容、特性理解・相談方法、企業への合理的配慮の求め方、各種制度・情報等についてのセミナー等の実施。
- ② 発達障害等がある学生の相談対応への助言
- ③ 大学教員等を対象に支援が必要な学生等の早期把握につなげる特性理解セミナーの実施。

(1) 学生

支援対象者

- ① 発達障害等の診断を受けたことがある者
- ② 障害特性に配慮した相談を希望する者
- ③ その特性がうかがわれ、大学から支援依頼を受けた者

支援内容

- ① 障害特性に応じた就職準備プログラム
- ② 自己理解のためのグループワークの実施
- ③ 社会資源の情報提供、見学同行。
- ④ 職業相談・職業紹介
- ⑤ 個別求人開拓
- ⑥ 職場定着支援

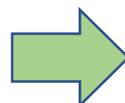
障害のある学生の課題

■ 多くの場合

自己理解ができていない状態で以下のような環境の急変に直面

① 「修学」から「修学＋就活」への移行と両立

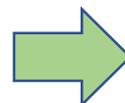
- ・必要単位取得 授業出席
- ・卒論作成
- ・就活（就職準備）



・スケジュールリング、バランスよく取り
組むことの難しさ

② 進路選択

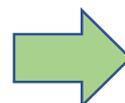
- ・一般求人か障害者求人が
- ・クローズかオープンか
- ・卒業後即就労か
準備期間等入れるか



・情報不足、ワンストップで入手し
にくい（学生・保護者共）
・メリット理解でも受容困難
（学生・保護者共）

③ スキルアップ

- ・日常生活スキル
- ・面接スキル
- ・筆記試験突破スキル



・各障害における特性起因による
突破のしにくさ

兵庫労働局における発達障害のある学生支援の方針とプロセス

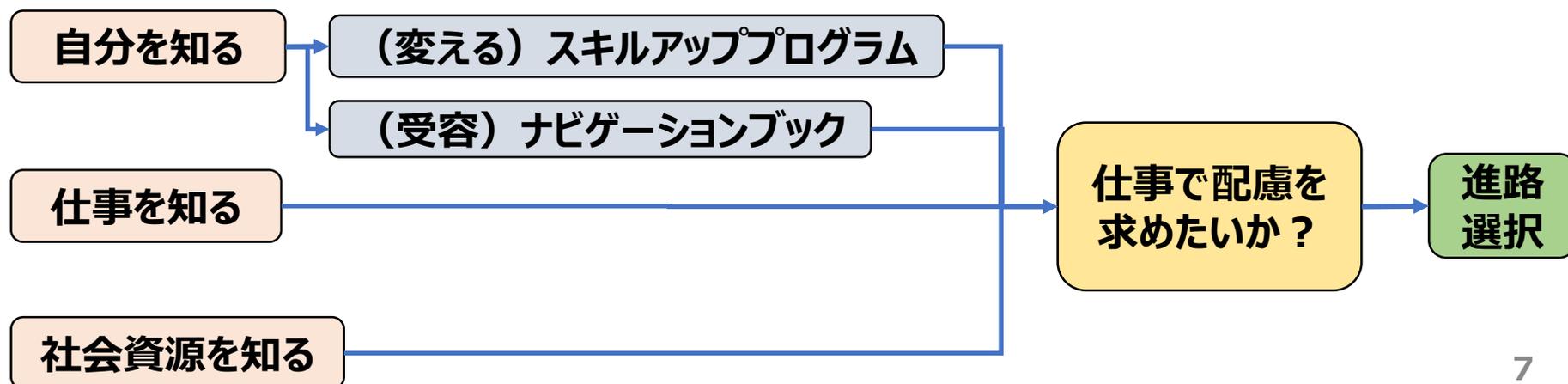
■ 方針

自己理解を進め、**自分の変えられるところ、変えられないところを理解し、変えられるところは変える勇気を持ち、変えられないものを受け入れる冷静さを持つ。**そして**仕事・社会資源を知る**ことによって**納得できる進路を自己決定する。**

■ 支援プログラム構築の基本的考え方

ノウハウ・ナレッジが蓄積しやすいように**兵庫ではこのプログラムをベースとしつつ、個々のニーズにも対応できるプログラムシステムとして兵庫労働局式オーダーメイドプログラムを構築。**

■ 支援プロセス概念



兵庫労働局式オーダーメイドプログラム

部品倉庫からファンクションモジュール（ツール・コンテンツ）をピックアップして、**その学生に合った製品（プログラム）**を作る。

ファンクションモジュール（FUM）倉庫

A インテーク & オリエンテーション

B 自分を知る（自己理解）

- ① やりたいことを知る：VRT、VPI
- ② できることを知る：GATB
- ③ 性格・特性を知る：TEG等
- ④ 生活リズムチェックシート
- ⑤ **特性チェックシート：NIVR,ACT-J**

C 仕事を知る

- ① jobtagの活用
- ② 10年後の自分
- ③ **短期就労体験**

D 自分の就労対応スキルのベンチマークとトレーニング

- ① 時間管理
- ② **こころのスキルアップグループワーク（CBT、ACT、アサーション）**
- ③ SST
- ④ ストレスコントロール（NIVR）

E 自己PRスキル

- ① ESの書き方
- ② 面接スキル
- ③ 集団討論スキル
- ④ **私の特性と対処法まとめ**

F 定着スキル

- ① キャリアシミュレーション
- ② 就労ワクチン接種
- ③ **こころのスキルアップ**

組み合わせプログラム例

セルフマネジメント（FUM:B）を含むプログラム

I：Early Start（1年から3年生前半）

B (①②③④⑤) → C (①②③) → D (①②③④)

II:Compact（3年生後半から4年）

B (①④⑤) → D (①②) → E (①②④)

III:Full Size（1年から3年生前半）

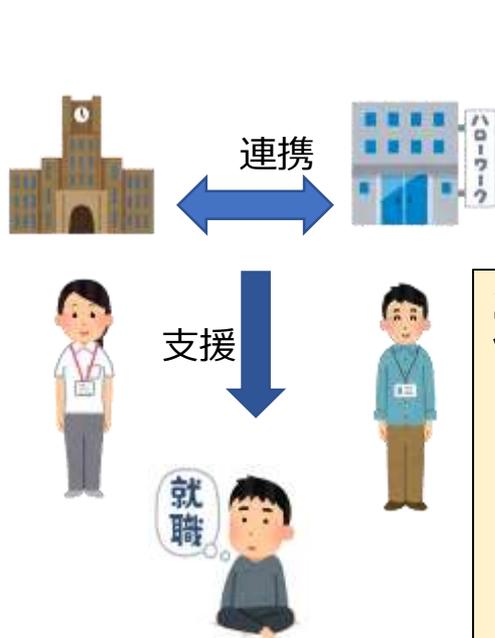
B (①②③④⑤) → C (①②③) → D (①②③④) → E (①②④)

IV:Standard（3年生後半から4年）

B (①) → C (①②③) → E (①②③⑧)

ハローワークと大学が一体となった支援プロセス

目標：大学から推薦された学生の支援のプロセスと実行
(診断の有無・学年・進路選択等ばらつきあり)



事前に3者でゴール・やり方を握り、進捗も共有 (PDCA)

進め方

- 1 大学からTSへ支援対象学生の紹介
(個人情報取り扱いに関する同意書確認済)
- 2 大学・TSとの方針の摺り合わせ
(期間・ゴールイメージ・把握している課題等)
- 3 TSが2をベースに支援プログラム案作成
- 4 **大学・TS・学生で3を確認**
- 5 **プログラムの実行 (PDCAを回す)**

ハローワークと大学が一体となった支援プロセス

大学・本人と合意した就職準備支援プログラムに沿ったPDCAを記入

就職準備支援プログラム		大学名		生年月日		求職No							
特性		氏名		卒業予定		作成日							
<p>27歳で「高機能自閉症」と診断。口数少ないが自分の意見をもっている。聴覚情報の処理苦手。視覚優位。マルチタスク苦手。話の前後関係をつかえることが苦手。想像しづらい特性があるが、経験を通じて、考える力は持っている。原簿手帳B2取得済み。</p>		<p>のんびりマイペースで行動に移すのはいつもどおりだが、決断力がないが、どうやって就職準備をしていくか具体的なイメージはない。</p>											
<p>就職に対する考え方 開拓するまでは、クローズで一般求人への応募を希望。本人からは「使えるものは使ったら良いかな」とオープンにも必ずしも肯定的ではない。</p>		<p>やりごと</p>											
<p>支援改革と実績 プログラム</p>		<p>支援方針 自己理解と障害受容および本人の努力の状況を共有しながら、年度内に進路方針を定める。</p>											
<p>10月</p>		<p>11月</p>		<p>12月</p>		<p>1月</p>		<p>2月</p>		<p>3月</p>			
<p>インタビュー & オリエンテーション</p>		<p>10月</p>		<p>11月</p>		<p>12月</p>		<p>1月</p>		<p>2月</p>		<p>3月</p>	
<p>アセスメント(自分を知る)</p>		<p>10月</p>		<p>11月</p>		<p>12月</p>		<p>1月</p>		<p>2月</p>		<p>3月</p>	
<p>仕事を知る(求人検索)</p>		<p>11月</p>		<p>12月</p>		<p>1月</p>		<p>2月</p>		<p>3月</p>		<p>3月</p>	
<p>実習、アルバイト</p>		<p>1月</p>		<p>2月</p>		<p>3月</p>		<p>3月</p>		<p>3月</p>		<p>3月</p>	
<p>進路検討</p>		<p>2月</p>		<p>3月</p>		<p>3月</p>		<p>3月</p>		<p>3月</p>		<p>3月</p>	
<p>OPでの振り返り</p>		<p>OP月日</p>		<p>D(実行したこと)</p>		<p>C(プランとの差異等)</p>		<p>A(本人)</p>		<p>A(HW)</p>		<p>A(大学)</p>	
<p>10月</p>		<p>19</p>		<p>インタビュー 人生の楽しさカーブ、小中高の状況、母親のサポート。高校時代の経験。関わりを良い人に恵まれる 自分を知る WAISIII(全IQ84)、生活リズム表(深夜活動)</p>		<p>計画通り。コミュニケーションは信頼関係できればできる。</p>		<p>計画通り。</p>		<p>生活リズム・スケジュール管理に課題。期間中に改善できればと思う。特性チェックを予定。</p>		<p>さまざまなアプローチによって、自己理解のための材料集めができたのではないかと考える。今後は、就業面と生活面それぞれの得意や課題を整理し、苦手への対応策を検討したい。</p>	
<p>11月</p>		<p>16</p>		<p>自分を知る 生活リズム修正方針3つ 仕事を知る VRT(RCA高い、分化できない) 生活リズム振り返り(1週間単位で良い) 特性チェックシート(理解はあるが困り度は多くない) 仕事を知る 職種(数字を使う業務)と仕事環境を北村氏とイメージ ※プログラム案の作成(12月実施)3者面談で話し合う予定)</p>		<p>計画通り。特性への理解はあるが、その改善へ大変な現状での代り、困り度の少なさとバランスで、急な改善の必要性の認識までが到達していないように見える。</p>		<p>やらなくちゃいけないと強で分かっているが、うまく実行に移せない。また、インプットができてアウトプットが苦手であり、タスク管理に難しさあり。</p>		<p>今回は学校でプログラム案を固めてこれまでの振り返りと今後の進め方について3者で相談することとした。</p>		<p>漠然とした不安感は軽減されている様子だが、就業未経験であるため、具体的なイメージを持つことが難しくそうである。今後は体験の機会づくりが必要。</p>	
<p>12月</p>		<p>2</p>		<p>三者面談。①学年末試験が落ちる11月末からアルバイトにトライ。北村先生へヘルプ。②③の振り返りも併せて長所・短所・配慮ポイント等をまとめることを本年度の目標とした。④今年度の新卒障害者求人でも仕事をイメージしてもらった。</p>		<p>計画通り。北村先生含めて進め方の確認ができた。新卒障害者求人に興味を持ってもらった。</p>		<p>仕事のイメージができ、自分にもできそうなことがあると思えたことで、意外とポジティブな気持ちがある。</p>		<p>ゴールイメージが明確になったので北村先生と連携して進めていく。</p>		<p>働くことへの関心の高まりを話す等、HW様との良好な関係のおかげで、本人ペースながらも一歩ずつ前進。今後は見通しをもって、本人の意欲維持・向上をサポートする。</p>	
<p>12月</p>		<p>23</p>		<p></p>		<p></p>		<p></p>		<p></p>		<p></p>	

ケースA：自己理解から進路検討まで

大学3年生（当時） 診断名：アスペルガー症候群

プログラム：Early Start

■ **目標**：3年終了時まで、自己理解のうえ進路検討

■ **成果**：自己理解・特性整理を経て、オープン就労を決定

■ **困りごと**：コミュニケーションが苦手。マイペースで、ギリギリに行動しがち。
幼少期から療育支援を受けているが、本人自身はあまり困り感がない。
働くイメージが掴めず、就活の進め方が分からない。(アルバイト経験なし)

■ **使用したツール・コンテンツ・その他**

① インテーク&オリエンテーション

「自分を知り社会資源を知り納得のいく進路選択をしよう」「楽しさ人生カーブ」

② 自分を知る

「VRT」「生活リズム表」「大学からの情報（過去含む）」

「診断情報（WAIS-Ⅲ）」「特性チェックシート」

③ 仕事を知る

「求人票検索&検討」「短期アルバイトにチャレンジ」

④ スキルアップトレーニング

「こころのスキルアップトレーニング」

■ 成果物

- ・自己理解アプローチシート
- ・私の特性と対処法（ナビゲーションブック）

■ 支援を通じた本人の変化

<内面の変化>

- ・①②を進めていく中で、相談者との信頼関係が醸成 → 漠然とした不安が軽減
- ・エンパワーメントを支援 → 主体的な言動が増え、自己決定力が高まった
- ・特性やストレングスを整理 → 自己肯定感、就労意欲の向上

<行動の変化>

- ・経験を通じて学びを深めることができる → 自らアルバイトへの挑戦を決めた
- ・③を進めていく中で、働くことのイメージや、得手・不得手などリアルに感じ取る
→進級後（現在）障害者求人を中心に、積極的に就活に励んでいる

■ 周囲の変化

<家族の変化>

- ・「先導者」 → 「見守り隊」・・・本人の自己決定を尊重した後方支援へ

<支援者の変化>

- ・「伴走者」 → 「応援団」・・・自信をもって進めるよう褒める声掛けを継続

ケースB：自己理解から就職まで

大学4年生（当時） 診断：ASD/ADHD

プログラム：Compact

- **目標**：(1) 4年生12月までに卒論等を完了および進路決定
(2) 3月末までに内定をゲット

- **成果**：(1) 4年生11月卒論、12月短期専門学校修了、
1月初旬障害者求人応募
(2) 2月末第一志望企業に内定

- **困りごと**：大学3年の時、アルバイトやインターンシップでのコミュニケーションがうまくいかず受診。自信がなくキャリアセンターにも行けず、**どういう進路選択をしたらよいのかもわからない**。また、**卒論・短期専門学校・就活の並立に困っている**。面談中ずっと泣いている。

■ 使用したツール・コンテンツ・その他

① インテーク&オリエンテーション

「自分を知り社会資源を知り納得のいく進路選択をしよう」「楽しさ人生カーブ」

「卒論・短期専門学校・就活のスケジュール作り」

② 自分を知る

「VRT」「生活リズム表」「大学からの情報（過去含む）」「診断情報（WAIS-IV）」

「特性チェックシート」

③ 仕事を知る

「一般求人と障害者求人のメリット・デメリット」「各種求人票検索 & 検討」

④ スキルアップトレーニング

「こころのスキルアップトレーニング」

⑤ 自己PRスキル

「エントリーシート・自己PRシートの書き方」「面接スキル」

■ 成果物

- ・自己PRシート等
- ・私の特性と対処法（ナビゲーションブック）

■ 支援を通じた本人の変化

<内面の変化>

- ・①②を進めていく中で、相談者との信頼関係が醸成 → 理解しようとする姿勢
- ・「卒論・短期専門学校・就活のスケジュールリング」 並列タスクから直列タスクに
→ 漠然とした不安が軽減、タスクの見える化でやる気醸成
- ・③を進めていく中で、障害者求人の適正な理解（選択肢の拡大・イメージ転換）
→ 家族と相談して障害者求職登録と手帳の申請を決意

<行動の変化>

- ・タスクの見える化（並列から直列） → 行動が活性化しひとつずつ確実に達成
- ・自己理解の結果として「私の特性と対処法」作成
→ 自分の障害や配慮ポイントについて冷静に説明できるようになった
第一志望企業に就職し、現在元気に働いている

取組の振り返り

- **支援プログラムのベースの構築と質の向上が基本**
ベースを構築し、ツール・コンテンツのブラッシュアップに注力
- **大学との連携を密に** 本人が混乱しないように同じ方向で進めること
- **ゴールを明確にすること** 本人も支援者も一定のプレッシャーを感じることに
・年内に進路決定する ・卒業までに内定をゲットする
- **ゴールからアクションに分解すること**
1年後の姿は描くことができても明日から何をするかは描くことが難しい
- 毎回**宿題を出し相談時間以外を有効に使うこと**
- 良いところ、できたところは**必ず具体的な言葉で褒めること**
- 信頼を得た支援者は良いシェルパにはなれるが、
あくまでも頂上に立つのはあなた、ということを自覚させること

兵庫労働局雇用トータルサポーターとしての今後の進め方

2つのケースを基に県下の大学との連携を幅広く進め、
発達障害等のある学生の支援を水平展開していく

1. 大学連携の水平展開

- ◇ **大学へのアプローチ** ⇒ 管轄ハローワークとTSの連携で大学へのアプローチ
管轄ハローワークで例年実施しているメニュー + TSメニューでアプローチ
- ◇ **学校側の支援スキル向上**
ニーズに応じてTSが支援
ニーズに応じて地域障害者職業センターが就労支援の技法等助言援助

2. 支援機関連携

- ◇ **地域障害者職業センター**
- ◇ **就労移行支援事業所**
- ◇ **障害者職業能力開発校**
- ◇ **地域若者サポートステーション**